

延岡市教育大綱

高い自己肯定感を育み、自分も他人も大切にする
「一人ひとりが主役の時代」にふさわしい人づくりを進める

令和3年 10 月

延岡市

大綱策定の趣旨

教育大綱は、*「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定に基づき、教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策の推進を図るため、教育行政全般に関する基本的な目標、施策の根本となる方針を地方公共団体の長が定めるものです。

本市の大綱は、「延岡市市民憲章」や「未来をひらく人づくり都市宣言」、「第6次延岡市長期総合計画」、「延岡新時代創生総合戦略」を踏まえ策定します。

大綱の期間

本大綱は、第6次延岡市長期総合計画の後期基本計画期間である令和3年度から令和7年度までの5年を対象期間としますが、教育を取り巻く状況の変化や施策の進捗状況等に照らしながら、必要に応じ見直しを行うこととします。

大綱策定にあたって

～私たちをとりまく経済・社会の構造的変化を見据える～

私たちは、現在、例えば次のような大きな経済・社会の構造的変化に直面しており、大綱策定にあたってはこのような変化を踏まえる必要があります。

1. 想定外の災害が相次ぐ中で大転換が必要な防災意識

想定を超える災害が相次ぐ中、平成30年12月、政府中央防災会議の防災対策実行会議がとりまとめた「平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について」の報告書には、「行政は防災対策の充実に不断の努力を続けていくが、災害が激甚化している中で、『既存の防災施設、行政主体のソフト対策のみでは災害を防ぎきれない』ことを前提にすると、国民全体で共通理解のもと、住民主体の防災対策に転換していく必要がある」と記載されています。

さらに目指す社会として、「これまでの『行政主導の取組を改善することにより防災対策を強化する』という方向性を根本的に見直し、住民が『自らの命は自らが守る』意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援するという住民主体の取組改善による防災意識の高い社会を構築する必要がある」と記載されています。

これは、防災行政の大転換を意味するとともに、防災に限らず、私たちが自ら判断し行動する必要性、さらには子どもたちのそのような意識を育むことの必要性を意味するものと考えられます。

*「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定：首長は、総合教育会議において、教育委員会と協議し、教育基本法第17条に規定する基本的な方針を参酌して、教育の振興に関する施策の大綱を策定する。

2. 想定外の新型コロナウイルス感染症の感染拡大と一人ひとりの行動の重要性

令和元年 12 月の中国・武漢市での初感染から世界全体での爆発的な感染拡大につながった新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中で、マスク・手洗い・うがいやいわゆる「3密」を避ける等、一人ひとりが「自分の身を自分で守る」ことや「自分の身を自分で守ることが、周囲の人を守ることになる」という状況に直面しました。

「一人ひとりの行動こそが感染拡大防止策」という状況の中、私たちは改めて一人ひとりの行動が社会全体につながっていることを痛感しました。このことも子どもたちに伝えていく必要があります。

3. 「デジタル化」がもたらす「一人ひとりが主役」の社会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、「リモート」形式による仕事や生活のスタイルが急速に普及しました。また学校の臨時休業を機に学校におけるオンライン学習も急速に普及しました。

このような社会の構造的変化の中で、私たちは、一人ひとりの仕事や生活のスタイルを自分で選びとることも可能なことを知りました。そのことが、「*ワーケーション」という言葉に代表されるように、大都市圏への一極集中の是正や企業等の地方展開の可能性等を大きく拓けています。

また、小中学校でのオンライン学習においては、児童・生徒一人につき一台の端末が整備されるとともに、本市では*AIソフトを導入することで、一人ひとりの到達度に合わせた主体的・自主的な学習が促進されることになりました。

このことは「自分は周囲と違う」ことが当たり前という状況をつくったともいえ、一人ひとりの子どもが自己肯定感や自己信頼を持つこと、多様性を認め合うこと等ができるきっかけにもなると考えられます。

4. SDGs (Sustainable Development Goals) 達成への貢献とダイバーシティ (多様性)

SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択された「誰一人として取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための2030年に向けた国際目標であり、17のゴール(意欲目標)と169のターゲット(行動目標)、232のインディケータ(評価指標)が設定されています。

SDGsの達成に向けては、年齢や性別、職業等を分けて考えるのではなく、一人ひとりに違いがあることを当たり前に受け入れ、その上で能力や可能性を引き出し、それを強みとして活かすという「ダイバーシティ(多様性)」の考えがとても重要です。SDGsの達成に向け、市民、市民団体、NPO、企業、大学等の多様な主体が、互いに尊重しあいながら連携して取組を進めていく必要があるとともに、子どもたちの「一人ひとりの違いを大切にす意識」を育てていく必要があります。

*ワーケーション：Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語で、テレワーク等を活用し、普段の職場や居住地から離れ、リゾート地などの地域で普段の仕事を継続しながら、その地域ならではの活動も行うもの。

*AIソフト：COMPASS社のAI型タブレット教材Qubena(キュビナ)のこと。AIの機能により一人ひとりの習熟度に合わせて最適な問題を出題する教材。

基本目標

高い自己肯定感を育み、自分も他人も大切にする「一人ひとりが主役の時代」に ふさわしい人づくりを進める

豊かな自然、城下町としての歴史、その中で育まれた伝統文化、たゆまぬ挑戦を続ける多彩な産業、魅力ある観光資源など、本市には他に誇れる素晴らしい財産が数多く存在します。

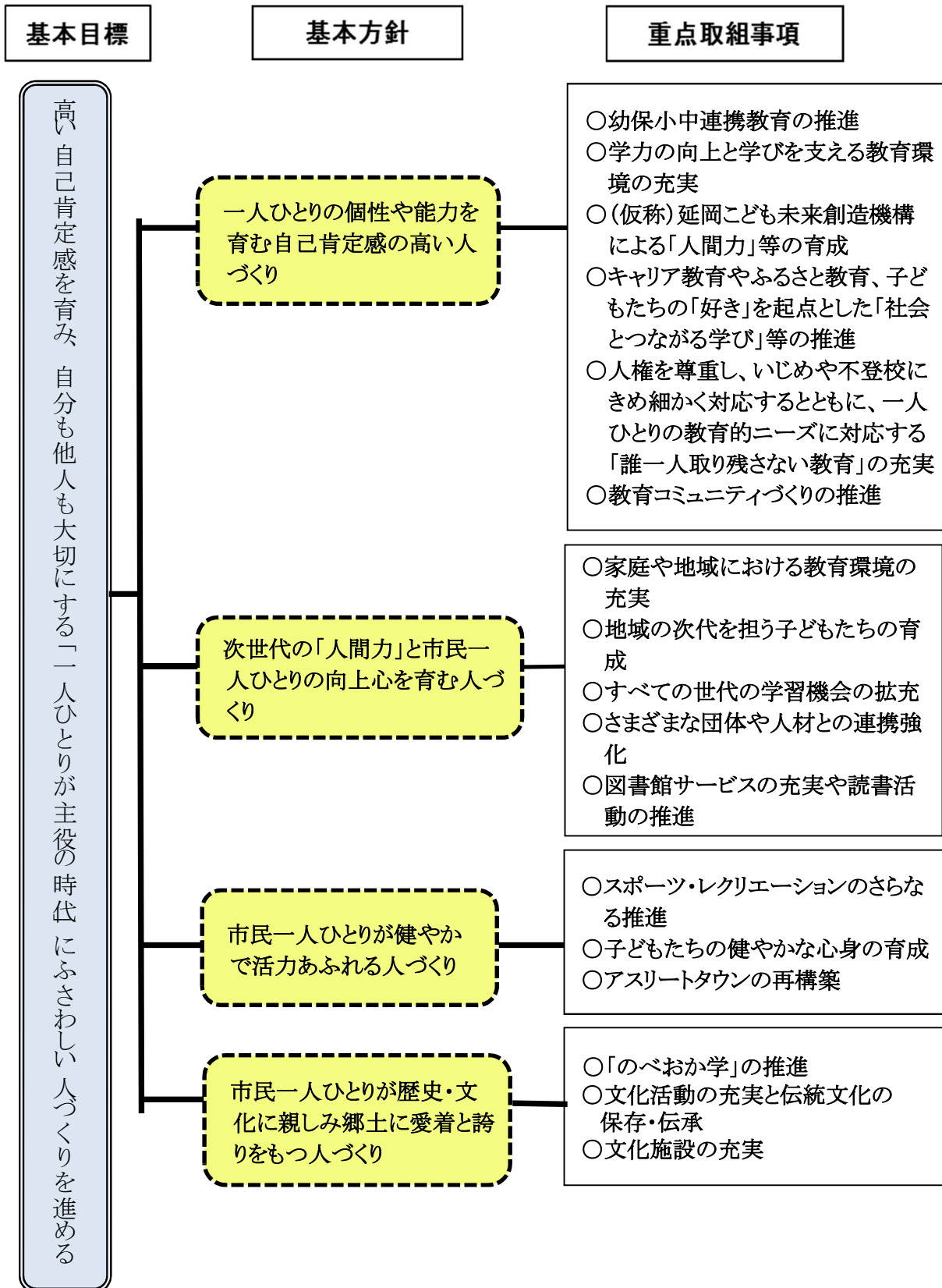
私たち延岡市民は、これらの貴重な財産を受け継ぎながら、さらに充実・発展させ、次世代にそのバトンを引き継ぐという大切な責務を果たしていかなければなりません。

その中で、前述の私たちをとりまく経済・社会の構造的変化を踏まえ、「一人ひとりが主役の時代」にふさわしい、いきいきと輝くことができる人材を育むためには、子どもたちの「知力」「体力」「生きる力」「*非認知能力」等の「人間力」を育成する教育が必要です。また、自分に自信を持つことが、一人ひとりの違いを大切にすることにつながると考えられることから、そのような多様性の時代にふさわしい教育が必要です。

このような考え方のもと、本大綱の基本目標を「高い自己肯定感を育み、自分も他人も大切にする『一人ひとりが主役の時代』にふさわしい人づくりを進める」とします。

*非認知能力：知力、体力のように点数などで明確に認知できないが、「人間力」の一部を構成する能力。例えば、あきらめない粘り強さ、興味関心、コミュニケーション能力等のこと。

大綱の構成



基本方針

基本目標を踏まえ、教育行政を総合的に推進するための4つの基本方針を定めます。

基本方針1 一人ひとりの個性や能力を育む自己肯定感の高い人づくり

児童生徒数が減少し、社会状況が多様化・複雑化する中で、これまで以上に保護者や地域・関係機関との連携を図りながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、*ICTの活用など学校が持つ教育機能を高めるとともに、特色ある学校づくりに努めます。

また、これからの時代を担う子どもたちの多様性を尊重し、自己肯定感を高めながら、新しい価値を創出する力など、「人間力」を育むことを目指し、教育コミュニティづくりを推進します。

基本方針2 次世代の「人間力」と市民一人ひとりの向上心を育む人づくり

少子高齢化、核家族化など、社会環境が変化する中、次代の子どもたちの社会性、ひいては「人間力」を育むため、関係団体との連携等をさらに強化しながら、「生きた学び」の提供に努めます。

また、市民一人ひとりが、生きがいを感じ、充実した生活を送れるよう、ICT等を活用して、多様な学習機会の創出や情報提供に努め、生涯にわたって学び続けることができる学習環境の充実を図るとともに、学習により得られた経験や知識を、学校や地域社会に活かすことのできる生涯学習社会の実現を図ります。

基本方針3 市民一人ひとりが健やかで活力あふれる人づくり

市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツや健康づくりに親しむことができるよう、各種スポーツ教室や健康教室を開催し、これまで以上に気軽に運動ができる環境づくりを行い、併せて、自らの健康に関心を持つ意識を育み、子どもたちの健やかな心身の育成に取り組みます。

また、スポーツ施設の整備を進めるとともに、優れた競技環境等を広く情報発信し、アスリートの合宿誘致をさらに進めるなど、アスリートタウンを再構築し、本市の全国的な知名度の向上や交流人口の増大を図ります。

基本方針4 市民一人ひとりが歴史・文化に親しみ郷土に愛着と誇りをもつ人づくり

延岡の自然や歴史、文化、産業への関心と理解を深め、市民一人ひとりが郷土への愛や誇りを醸成するとともに、伝統文化の保存と後継者育成に取り組みます。

また、文化施設等の整備を進めるとともに、市民の主体的・創造的な文化活動や交流活動を促進し、より一層豊かな文化を育てていきます。

*ICT：コンピュータや情報通信ネットワーク等の情報コミュニケーション技術。

重点取組事項

基本方針の実現に向けて、重点的に取り組む事項を定めます。

基本方針1 一人ひとりの個性や能力を育む自己肯定感の高い人づくり

○ 幼保小中連携教育の推進

- ・就学前教育、小中学校9年間の義務教育において、系統性と連続性のある一貫した教育に取り組みます。
- ・島野浦における義務教育学校の開設や運用等を通して、義務教育学校の可能性を探求し、新しい時代に即したカリキュラムの創造に努めます。

○ 学力の向上と学びを支える教育環境の充実

- ・*陰山メソッドの実施により基礎学力や集中力を高めるとともに、全国学力・学習状況調査等の結果分析等に基づいた指導内容の重点化や、大学や*NPO 法人学校支援のべおかはげまし隊など関係団体等との連携による「主体的・対話的で深い学び」を実現し、確かな学力の定着に努めます。また、自分の考えを、根拠を基にして自分の言葉で論理的に表現する力である論述力の育成にも努めていきます。
- ・延岡市教育委員会と(仮称)延岡こども未来創造機構との連携により、一人ひとりの到達度に応じた学習(苦手な点の克服やより高いレベルへの挑戦など)や外部人材の積極的活用による同時双方向遠隔授業などを強力に進めます。
- ・ICT、IoT、AI等の活用による個別最適化学習や遠隔交流授業の実施、地域の人材の教育力によるサポート等により、すべての児童生徒の自己肯定感を育みながら、基礎学力や表現力等を高めていきます。併せて、教員が新たな教育の推進に専念できるよう、スクールサポートスタッフの拡充を含めた学校の働き方改革を力強く進めます。
- ・交通安全教室や防災教室等を通して危機管理意識を高めたり、健康づくりへの意識を醸成したりすることにより、「自分の身を自分で守る」教育に取り組みます。また、総務省の支援により既に策定した*地域IoT実装計画も踏まえ、島野浦における特色ある学校づくりを含めた新たな教育の展開に対応できる安全で快適な教育環境の整備・充実を図ります。

○ (仮称)延岡こども未来創造機構による「人間力」等の育成

- ・急速な社会の変化や教育に対するニーズの多様化等により学校・地域・家庭だけでは解決が難しい課題が増えているため、第4の存在として(仮称)延岡こども未来創造機構の創設に取り組み、様々な課題を解決しながら、延岡市ならではの「人間力」を育む教育を行っていきます。
- ・(仮称)延岡こども未来創造機構の創設による、*プレーパーク事業や自然体験活動など学校外での様々な体験活動の促進等により、「外遊びの達人」「人間関係づくりの達人」をたくさん育てます。これにより、高い自己肯定感や主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、自分も他人も大切に人づくりを進めます。

*陰山メソッド：陰山英男氏が実践してきた学力向上のための様々な指導方法。

*NPO 法人学校支援のべおかはげまし隊：旭化成 OB を中心に、中学校の数学、理科等の授業に入り、学習支援を行っている団体。

*IoT：従来インターネットに接続されていなかった様々なモノがネットワークを通じて相互に情報交換をする仕組み。

*地域IoT実装計画：地域IoTを効果的に利用して、地方の学校が抱える少人数化等の課題を克服する「新しい教育」の事例づくりのために令和元年度に本市で策定した計画。

*プレーパーク：子どもたちが想像力を働かせて自ら遊びを創ることができ、自主性や冒険心を育むような遊び場。

○ キャリア教育やふるさと教育、子どもたちの「好き」を起点とした「社会とつながる学び」等の推進

- ・地域の教育力を積極的に活用し、体験を通じた「生きた学びの場」として、キャリア教育やふるさと延岡に誇りを持てるような教育の充実に努めます。
- ・子どもたちに延岡の良さやすばらしさを伝え体験させるとともに、地域の人材との連携のもと、地域への貢献活動や地域行事への参加促進、子どもの視点から地域課題に取り組む活動への参加促進など、地域を意識した教育活動を充実させます。
- ・一つの学校の枠を超え、大人ともつながる「学びのコミュニティ」づくりを進める中で、興味、関心ごとに応じた多様な部活動や防災学習など社会とつながる学びを進めます。

○ 人権を尊重し、いじめや不登校にきめ細かく対応するとともに、一人ひとりの教育的ニーズに対応する「誰一人取り残さない教育」の充実

- ・一人ひとりの多様性を大切にする子どもを育むために、多面的・多角的に考え、しっかり議論する道徳教育の充実に努めるとともに、人権や生命を尊重する意識・態度の育成に努めます。
- ・いじめや不登校をはじめとする諸問題の未然防止や解決、迅速な対応等を図るため、家庭・地域・関係機関等との連携を強化しながら、「*なんでも総合相談センター」等の相談対応機能をフルに発揮し、オンライン学習を含む*アウトリーチ・オアシス教室の機能をさらに拡充します。
- ・一人ひとりの障がいの状況を的確に把握し、将来的な自立等も見据えながら、学習活動支援員の拡充やICTの活用等も含め、教育的ニーズに基づいた支援や連携を図る等、指導する教員の資質向上を含め、特別支援教育の充実に努めます。
- ・以上の取り組みにより、「誰一人取り残さない教育」を推進します。

○ 教育コミュニティづくりの推進

- ・子どもたちの「人間力」を育成するために、様々な教育活動において、保護者や地域、キャリア教育支援センター、NPO 法人学校支援のべおかはげまし隊をはじめとする団体や企業、(仮称) 延岡こども未来創造機構等の様々な機関と連携・協働しながら、延岡市ならではの特色ある教育を推進します。
併せて、「地域とともにある学校」を核とした教育コミュニティづくり(コミュニティ・スクールの導入等)に取り組みます。

*なんでも総合相談センター：「医療・介護・福祉」と「子育て・教育」の2つの分野を中心に、市民の各種相談にワンストップで対応する相談窓口。

*アウトリーチ・オアシス教室：市内小・中学校に在籍する不登校や問題行動等の生徒指導上の問題を抱える児童・生徒に対し、必要な指導、支援等を行い、学校への復帰を目的とする適応指導教室。

基本方針2 次世代の「人間力」と市民一人ひとりの向上心を育む人づくり

○ 家庭や地域における教育環境の充実

- ・地域や学校、社会教育関係団体等と連携し、「子育て・親育ち」を応援する学びの機会を提供します。
また、子どもの社会性や「生きる力」、郷土愛を育む体験活動を継続的に実施し、内容の拡充に努めます。

○ 地域の次代を担う子どもたちの育成

- ・(仮称)延岡こども未来創造機構の創設や、延岡の人材や特色を活かした自然体験活動の実施等により、子どもたちの「知力」「体力」「生きる力」「非認知能力」等の「人間力」を育む取組を行います。
また、困難を乗り越える力や自己信頼を高める等、こころを育む取組を行います。

○ すべての世代の学習機会の拡充

- ・市民の主体的な学習活動や自然体験を含めた様々な「生きた学び」を促進するため、あらゆる機会を捉えて市民への情報提供や意識啓発に努めます。
また、ICT等を活用して、多様な学習機会・情報の提供に取り組みます。

○ 様々な団体や人材との連携強化

- ・学校、家庭、地域や社会教育関係団体、企業等と連携し、生涯を通じた学習によって得られる経験や知識等を発揮できる場の確保・拡充に努めながら、人材の育成と指導者の確保に努めます。
- ・NPO 法人学校支援のべおかはげまし隊をはじめ、子どもたちの学習支援等を行う団体等の活動がさらに盛んになることを通して、活動に参加する方々の生きがいや向上心が高まるよう、関係団体との連携・協力関係をさらに強めていきます。

○ 図書館サービスの充実や読書活動の推進

- ・図書館を「知の拠点」と位置付け、市民の生涯にわたる学習活動を支援するため、移動図書館や様々なネットワーク情報資源等も活用しながら、多様化するニーズに応じた情報や地域の課題解決に必要な資料の提供等を行います。
- ・各種イベントや図書の展示等を通し、幅広い年齢層に向けて図書館の利用促進を図ります。また、関係機関やボランティア等と連携して、子どもたちが発育段階に応じた読書習慣を身につけ、将来にわたって本に親しむことができるよう乳幼児期からの読書活動の推進に取り組みます。
- ・図書館や学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、各学校が取り組む読書活動に対しても様々な支援を行います。

基本方針3 市民一人ひとりが健やかで活力あふれる人づくり

○ スポーツ・レクリエーションのさらなる推進

- ・市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツ・レクリエーションを生活の一部に取り入れることができるようソフト・ハード両面における必要な施策の展開に努めます。併せて、関係団体、スポーツ推進委員等と連携し、各種スポーツ教室や健康教室・イベント等の内容充実と拡充に努めます。また、市民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、施設の整備や情報提供を行う等、スポーツ環境の充実を図ります。
- ・本市ゆかりのトップアスリートをはじめ、各分野の指導者の方々による直接指導や、小中高合同練習会の実施等により、競技人口の拡大や競技力向上を推進します。

○ 子どもたちの健やかな心身の育成

- ・子どもたちの健やかな心身を育むため、自らの健康に関心を持つ意識を育み、食育を一層推進するとともに、小中学校毎に「体力向上プラン」を作成し体力向上に努めます。
- ・健康に関する正しい知識や望ましい生活習慣の定着に向け、より一層家庭と連携し、家庭ぐるみ、地域ぐるみで心身の健康づくりを行っていきます。

○ アスリートタウンの再構築

- ・2027年開催の宮崎国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会をはじめ、全国・九州規模の新たな大会やプロ・実業団・大学等の合宿にもこれまで以上に対応できる施設整備を推進し、アスリートタウンの再構築に取り組みます。
- ・関係団体等と連携・協働し、市民が「する（競技）」、「観る（応援）」、「支える（支援）」など、多様な形でのアスリートタウンづくりに参加する環境を整えます。また、様々な機会を捉え、アスリートタウンのべおかの情報発信に努めます。

基本方針4 市民一人ひとりが歴史・文化に親しみ郷土に愛着と誇りをもつ人づくり

○ 「のべおか学」の推進

- ・超一級品の海・山・川に代表される自然、旧石器時代から近世、近代に至る多様な歴史、多くの文化財や若山牧水等に表される豊かな文化、延岡新興の母・野口遵翁のあきらめることなく挑戦をし続けた軌跡としての産業遺産など、豊富な資源を教育資源として活用し、延岡の素晴らしさや可能性等を学ぶ、いわば「のべおか学」を生涯学習の一つとして推進します。
- ・市制施行 100 周年を迎える令和 14 年度に向けて、本市の歴史・文化・民俗等を体系的にまとめた延岡市史の編さんに取り組みます。
併せて、最新の研究成果を含めた「延岡市史だより」の定期的な発行や講演会の実施、さらに事業の進捗報告や意見交換等を行う会を開催すること等により、市民一人ひとりが郷土のべおかに誇りや愛着をもつ「のべおか大好き人」を育てます。

○ 文化活動の充実と伝統文化の保存・伝承

- ・美術展覧会や音楽祭など市民参加型の文化活動を推進するとともに、古文書講座、出前講座、文化財見学会等を開催します。
- ・文化関係団体等との連携を図りながら、地域の伝統文化の保存・伝承と後継者育成に取り組みます。
併せて、途絶えている伝統文化の掘り起こしや、振興を図ります。

○ 文化施設の充実

- ・延岡城・内藤記念博物館を、県北初の国の公開承認施設で美術館機能も有する歴史民俗博物館として再整備します。これにより、これまで以上に延岡の歴史・文化に親しむことができ、且つ貴重な歴史資料や優れた美術作品等を観覧できる機会を提供します。
また、整備地がかつての延岡城西ノ丸であり藩主の邸宅跡であったことを踏まえ、城下町・延岡を実感できる空間を創出します。
- ・野口記念館は新たに「野口遵記念館」として建替え、音響面を重視したホールや多目的に活用できるフリースペース等を整備することにより、各種学びイベントや市民活動等をこれまで以上に盛んにします。
また、野口遵翁の人物像をわかりやすく伝えるギャラリーを設置し、夢や志に向かって挑戦し続ける大切さを次世代に伝えます。
- ・新たな手法等も活用して、延岡城跡周辺に古民家風のくつろぎ空間等を整備し、そこに民俗資料も展示する等により、城下町・延岡の歴史の豊かさを体感できるエリアを形成し、市民のふるさとの誇りを育むとともに、市外・県外に延岡の豊かな歴史・文化を発信します。